



ちばりは ニュース

2022年11月発行 第50号

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理 念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。



〒266-0005

千葉市緑区誉田町 1-45-2

TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857

ホームページアドレス

<http://www.chiba-reha.jp/>



中学校の交流授業に参加しました。

地域新聞社が発行する「10年先のジョブノート」に取り上げられたことで、昨年度に引き続き、当センターの理学療法士、作業療法士が講師として交流授業に参加しました。

市川市立東国分中学校・鎌ヶ谷第三中学校

交流授業の様子や職員の感想

- ・とても貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。生徒の皆さんが未来を考える際に医療職がちらりとでも浮かび、障害理解が少しでも進んだら幸いです。(PT)
- ・感染対策の影響で、学校外で職業体験を経験する事が難しい中、訪問してもらえるのは、とても有難いと声をかけて頂きました。このような機会を下さり、有難うございました。(OT)



千葉市立山王中学校

- ・車いすは以前にも体験したことがあると話題に挙がり、特に義足歩行の体験が人気でした。実際に義足を装着して歩行していただき、「すごい重い」「これをつけて（切断の方は）歩いているからすごい」など話を聞くことができ、少しでも興味を持ってもらえて嬉しい気持ちになりました。(PT)
- ・作業療法士を知っている方がいたことに驚いたと共に、生徒の皆さんが積極的に学ぼうとする姿勢が印象的でとても嬉しく思いました。実際には、自助具や福祉用具の体験を通じ生活のリハビリを行うことをお伝えしたり、視線入力装置の体験をしたりして頂きました。生徒の皆さんが楽しみながら興味を持ってもらえたのは嬉しく思いました。今後もこのような機会を通じ、一人でも多くの方に理学療法士や作業療法士の現場の声や仕事内容をお伝え出来ると良いと感じました。(OT)



船橋市立法田中学校・千葉市立末広中学校

- ・緊張して参加しましたが、生徒の皆さんが楽しそうに実技体験をしている姿を見て、私も楽しく授業をすることができました。今回の講習を機に少しでもリハビリの職業に興味を持ってもらえると嬉しいです。(PT)
- ・今回の交流授業は、改めて作業療法士とはどういう仕事なのかを考えさせられる機会になりました。生徒の皆さんの純粋な質問や生き生きとした表情をみて、気持ちが引き締まりました。この授業で、少しでもリハビリテーションに興味を持っていただけたら嬉しいです。(OT)
- ・PT、OTのお仕事内容について興味を持って下さって嬉しかったです。生徒の皆さんが真剣に話を聞いて、楽しそうに体験をして下さり、私も楽しかったです。より一層精進していきたいと思いました。(OT)



伊藤孝子さん・知念洋美さんが「文化の日 千葉県功労者表彰」を受賞されました

当センターのリハビリテーション治療局長 伊藤孝子さん、総務部主幹知念洋美さんが、「文化の日 千葉県功労者表彰」を受賞されました。そこで、お二人にお話を伺いました。

(伊藤さん：千葉県作業療法士会理事兼事務局長として保健衛生の向上に尽力した功績)

(知念さん：前リハビリテーション治療部長として障害福祉の向上に尽力した功績)

●受賞された感想は？

伊：千葉県作業療法士会会員の皆さんとともに、県の医療福祉保健分野の発展のために会の活動が続けてきたことで表彰していただき大変嬉しく思います。以前は千葉リハセンターに士会の事務局を置かせていただいた時期があり、センターの皆さまのご理解・ご協力に感謝いたします。

知：リハビリテーションという分野で表彰いただきとても光栄です。病や怪我を得て初めてリハビリを知るのではなく、全ての人の意識と環境が変わり、誰もが暮らしやすくなりますようにと願います。

●今までで一番嬉しかったことは何ですか？

伊：嬉しかったことはたくさんあります。小さな頃から担当していたご本人とご家族が、不安や悩みを乗り越え、また年々介護が大変になりながらも、支えあって明るく楽しく生活を送っている様子を聞くと、とてもうれしくなります。昨年「結婚しました！」とステキなウエディングドレスの写真をを見せてもらった時は、感無量でした。

知：思い出すこと全てに共通するのは、言語のリハビリを終えたあと、ご本人やご家族がコミュニティで暮らしている元気な様子を知ったときにとても嬉しいということです。

●これからの目標は何ですか？

伊：次の世代にバトンをつなぐことです。また職員の皆さんがこれからもよりよい支援ができるよう、働きやすい環境を整えていくことを頑張りたいと思います。

知：コロナ禍をきっかけにオンラインの利活用が広がりました。対面の臨床に加えて、オンラインの言語リハビリという選択肢が増えること、そのために日本でも環境を整えることに寄与したいと考えています。

(上記、伊：伊藤さん、知：知念さん)

